

## ◇編集後記◇

子年の新年を迎えました。会員の皆様におかれましては新たな気持ちで新年に臨まれていることと存じます。昨年はメタボリックシンドロームに対応した特定保健指導のあり方が産業衛生学会でも問題となりました。地域・職域を超えた保健指導という理念は誰も反対する者はいないでしょうが、その具体的な制度設計については、本学会理事会等でもさまざまな議論があり、法制度委員会での詳細な検討がなされました。すでに走り出した大きな流れの中で、有識者の集まりである学会の意見が必ずしも行政へフィードバックされなかったという経緯があります。特定保健指導を柱のひとつとする改革が本年4月から始動しますが、職域においてこの新たな制度がどのようにソフトランディングするのかについて、関係者すべてが注意深く見守り、必要な対応を議論すること

になると思います。学術団体たる本学会が大きく動く社会的制度変革にどのように関わるべきなのか、真価が問われる年になります。

投稿される数多くの論文を拝読いたしますと、産業衛生学はつねに時代の変化を先取りして、働く人の健康問題に対して果敢に取り組みなければならないのだという使命を実感いたします。社会がより便利な豊かさを追求していくのは良いことなのでしょうが、その際には必ず負の部分も考えていかななくてはなりません。「人々の健康」への配慮を忘れないことが社会の豊かな進歩の必要条件です。本年も本学会の会員の皆様が、それぞれの立場で、産業衛生学の発展に一層寄与していただくことを祈念して、編集後記の結びといたします。

(本橋 豊)

## 「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也（和歌山医大）

副委員長：圓藤陽子（東京労災病院）、武林 亨（慶應大）、堤 明純（産業医大）、  
本橋 豊（秋田大）、森 満（札幌医大）

荒木田美香子（大阪大）、有澤孝吉（徳島大）、市場正良（佐賀大）、掛本知里（東京女子医大）、上島通浩（名古屋大）、車谷典男（奈良医大）、甲田茂樹（独法労働安全衛生総研）、河野公一（大阪医大）、西條清史（金沢大）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（独法労働安全衛生総研）、塩飽邦憲（島根大）、笠島 茂（国立保健医療科学院）、埜田和史（滋賀医大）、谷川 武（筑波大）、錦戸典子（東海大）、橋本英樹（東京大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、保利 一（産業医大）、森河裕子（金沢医大）、森田 学（北海道大）、森本泰夫（産業医大）、八幡勝也（産業医大）、若林一郎（兵庫医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番